

■演題8 LECS における軟性内視鏡の清潔操作の標準化の検討

香川大学 消化器・神経内科 1

愛媛労災病院 外科 2

森宏仁 1,2、小原英幹 1、都志見貴明 2、藤原新太郎 1、西山典子 1、正木勉 1

背景目的：LECS では軟性内視鏡は口腔内をとって胃内に挿入されるため、口腔内細菌の腹腔内暴露は少なからず必発である。NOTES 関連での洗浄など報告は様々で定量評価した報告はない。この研究は臨床導入した LECS の胃内洗浄効果を prospective に細菌学的な検討をした。

方法：胃 GIST に対し 2012 年から登録した胃内洗浄 2000 ml を施行した 7 例を対象とした。LECS 開始前に蒸留水 20ml を胃壁に散布し胃液を滅菌チューブで 20ml 採取し培養に提出した。胃内を water jet 付内視鏡を用い生食 2000ml にて胃内をくまなく洗浄した。内視鏡で食道・胃と生食 2000ml で洗浄した。内視鏡を抜去しながら消毒施行しこの内視鏡を抜去した。マウスピース・口周囲もイソジン消毒しガス滅菌施行された内視鏡に交換後、内視鏡術者・助手は手洗いし清潔操作に移行した。切除腫瘍を回収後、蒸留水 20ml を胃壁に散布し胃液を滅菌チューブで 20ml 採取し培養に提出し腹腔鏡ポートから腹水 20ml を採取し培養に提出した。培養菌量は対数表示に変換し比較検討した。

結果：LECS での胃液培養の細菌量の変化を対数表示で比較すると、胃洗浄前菌量は median 7.32 で、LECS 終了後の胃液菌量は median 0.48 で、LECS 終了後の腹腔内液の菌量は median 0 で胃内洗浄前と LECS 後の胃液菌量に明らかな有意差を認めた ($p=0.026$)。胃液洗浄前と LECS 後の腹腔内菌量にも明らかな有意差を認めたが ($p=0.025$)、LECS 終了時の胃液菌量と腹水菌量に有意差を認めなかった ($p=0.482$)。

結論：生食 2000ml による洗浄は有意な細菌減少効果を示し胃内と腹腔内は同等に清潔に保たれていた。LECS における軟性内視鏡側の標準洗浄法になると思われた。